

はじめに

「NO, 10」発行にあたって

今回ご紹介する内容は、「まちづくりフォーラムⅢー自治会・町内会とNPO・ボランティアの協働。ー地域防災のまちづくり」の内容をまとめたものです。最初に、発行が大幅に遅れてしまったことをお詫びしなければなりません。全く私どもの責任に帰することで、関係各位、とりわけ講師各位にご迷惑をおかけしましたことをこの場を借りてお詫びしたいと思います。

さて、東海地震、東南海地震などが発生する可能性について、「いつ起きても不思議ではない状況」とさまざまな方々から指摘されています。このフォーラムでも谷口仁士先生から各種の調査報告をもとに説明いただきました。最近も、スマトラ沖地震をはじめ国内外で大きな地震が頻発し、不気味な不安感を抱かざるを得ません。こんなまち、こんな準備、こんな家、こんなネットワーク(人間関係)で大丈夫だろうか？ 本気で、「どうするのか」を考える必要性を感じます。

私どもボランタリーネイバーズが、2001年の団体設立時において自らを「NPO & まちづくりのサポートセンター」として位置付けたのは、95年の阪神淡路大震災において、自治会・町内会やボランティア・NPOなどの住民・市民組織の果たした役割やその協働に着目したことに源があります。

以来、こうした観点からさまざまな取組みを進めてきておりますが、そのなかで一層、地域課題の解決やまちづくりに向けて、自治会・町内会の「地縁組織」とボランティア・NPOなどの「知縁組織」(思いでつながる組織の意味。かなり一般化してきた表現として受け止め使用させて頂いています。)の協働を促進する必要性を痛感しています。

地域課題や地域の実態など、まちづくりを進める上でのそれぞれが持っている情報の共有が、協働の最初の一步として重要な役割を果たします。また、一つ一つの事業計画やまちづくりプランの策定や実施をマネジメントする力の養成も必要とされます。

NPO・ボランティアも自治会・町内会などの地縁組織も、その活性化や体制確立などの課題について、自らの努力でどうしていくのかを考え答えを出していくことが重要になっています。

そうした課題を一つ一つ克服し、力をつけ、市民個人が、個々の組織がパワーアップしていきつつ、市民協働や行政との協働を成熟させていくこととなります。

フォーラムでは、NPO法人レスキューストックヤードの栗田暢之さんにコーディネート役をお願いし、名古屋市、安城市、西尾市の三つの協働事例をそれぞれ現場で活動していらっしゃる方からご発表頂き、市民協働や行政と市民との協働について議論させて頂きました。また、今できること、今やらねばならないこと、すなわち予防の体制やその措置、そして、実際に地震が発生した時の対応についての訓練や準備などについて、自主防災、地域防災の観点にポイントを置いて話し合いました。

高齢社会のなかで、「災害弱者」となる方々がたくさん生まれつつあることも指摘され、福祉系NPOと防災系NPOの協働、建築家や行政などの専門家や担当者などとの連携への期待なども話されました。

このフォーラムで議論され提起されたことの幾つかは、すでに今日に至るまでに手がつけられたものもあります。でも、地域全体として、地方全体としては、まだまだ進まないでいることの方が多いように見受けられます。

現在、「安心・安全のまちづくり」が基本コンセプトとして、各自治体で取り組まれています。防災をテーマにする場合、阪神淡路大震災をはじめ幾多の「災害・犠牲」のなかから教訓をくみ出し、市民・住民が主体となって地域現場での顔の見える関係づくりを進め、自主防災・地域防災のための地域協働体制を構築していくことが重要だと思います。

ボランティアネイバースとしても、引き続きまちづくりの重要テーマとして位置付け、情報提供やネットワークづくりなどに取り組み、サポートセンターとしての役割をはたしていきたいと思っています。

2005年12月

特定非営利活動法人ボランティアネイバース
理 事 長 大 西 光 夫